

〔建築作品〕

## 開かれた店主の棲<sup>すみか</sup>

—東日本大震災の被災地 宮城県石巻市街地におけるリノベーション空間の役割—

細 田 みぎわ\*

(2017年11月9日 受理)

設計・監理：細田みぎわ + Hosoda Archi-Studio

Proposal of Opened Master's Den  
as a Function of Renovation Space in Miyagi  
Ishinomaki Severely Hit by the Great East Japan Earthquake

Migiwa HOSODA\*



写真1 2階 本の空間

\* 広島女学院大学人間生活学部生活デザイン・建築学科  
教授

## 1. 背景・敷地

2017年7月22日～9月10日宮城県石巻市において、REBORN ART FESTIVAL 2017（主催：Reborn-Art-Festival 実行委員会、一般社団法人 AP バンク）が開催された。「東北・石巻でアート、音楽、食」をテーマにした総合祭である。「ここで生まれる新しいつながりから、地域復興や振興につながるさまざまな循環を生み出すことがこの祭典の目的である」という。会場は石巻市街地中心エリア、市街地周辺エリア、牡鹿半島中部エリア、牡鹿半島先端・鮎川エリアと広範囲にわたった。

2011年東日本大震災から6年半、瓦礫や津波の痕跡はほとんど見られなくなった。市街地の商店街では、新築や工事中の建物、手つかずの空地、再開発の実施を待ち構えている古い建物が混在している。その中、今回の祭典で、復興に取り残された室内空間が、街の記憶を掘り起こすようにアート作品の居場所としてそのまま公開された。空間のしつらえにカビ臭いにおいも伴い、昭和の時代に栄えた港町にタイムスリップした様な気分の中、アート作品は来場者に考えるきっかけを与えてくれる。一方、牡鹿半島エリアでは、リアス式海岸や緑などの自然に呼応するように作品が置かれ、津波があったとは思えないようなおだやかな風景がうかがえた。

この祭典の会場のひとつとなった「開かれた店主の<sup>すみか</sup>棲」は、リノベーションして復活した展示空間である。多い日で一日500名程度がこの空間を訪れた。

この敷地は、津波のため、付近を流れる北上川の水位の上昇により1階はほとんど浸水した。石巻市街地の商店街で建物が密集しているため、全壊には至らなかったが、壁の一部が崩壊、水位の跡が生々しく残っていた。

震災後当初は、この敷地も再開発計画の一部として進められたが、店主は条件整理を行い様々な情報を収集した上で、そんなに美味しい話はあるはずないと、再開発計画（14階建て集合住宅建築計画）から離れることを決意した。そして、「グループ補助金」（中小企業等グループ施設等復旧整備補助金：被災中小企業の建物や設備の復旧費の一部を国、県が補助する）を受けて、街の電器屋の復活と人々の交流の場を確保することを目的とし、1階部分と以前居室であった2階一部のリノベーションに踏み切った。

## 2. コンセプト

この店舗は、佐藤兄弟ラジオ商会として、昭和初期に開店した。ところが近年、街の小さな電器屋は、郊外の大規模電器店の影響を受け、客足が遠のいていた。

以前は、ここで住居を構えていたという。木造で2・

3階は増改築改築が4回繰り返された痕跡が見られる。また、南側には路地があり、奥の住宅へのアプローチとなっている。小さな祠や地面の石張りが昭和を感じさせる。その路地の南の建物の一部と奥の住宅は再開発エリアとなり、現在解体工事が進んでいる。

店主は、最初に夢の空間のスケッチを見せてくれた。それは、打合せの度に描き変えられていった。

「震災がきっかけで本が増え、趣味のフィギュアや小物、レコードも多く残されている。スピーカーはいい音を出してくれる。たまにはバイクもいじりたい。作業空間もほしい。キッチンで据えて電器メーカー主催の料理教室も開催したい…」要望する空間は、店というよりは、まさに店主の城をつくる計画であった。

リノベーション計画では、店舗の両壁の内側に構造補強を行った。仕上りの壁は、耐震補強として壁倍率をあげる構造用合板（3×10版）を用いた。4回の増改築の度に柱芯が微妙に異なっており、それに対応するように仕上がり壁面の位置は微妙にずれることになった。また、店舗から直接2階へ上がる階段を新たに設置した。階段も同様に構造用合板を用い、積層して組み上げた。壁からのキャンティレバー（片持ち）の階段である。階段横には本棚を設置し、2階ではそれは手すりの代わりとなった。階段上部にはトップライト・ハイサイドライトを設け、階段に座り本が読める空間にした。

店舗、オーディオの空間、酒の空間、本の空間、作業の空間、水廻り空間で構成される。階段下の作業の空間の壁に設置した棚にはフィギュアや小物が並んだ。増改築の繰り返しにより微妙にずれた壁が、各空間をわずかに仕切る役目を果たしている。

このようにして、入口は気軽に立ち寄れる街の電器屋であるが、内部に入るとそれとは少し様子が異なる店主の<sup>すみか</sup>棲が完成した。震災をきっかけに人とのつながりの大切さを知った知人、友人が訪れ、イベントが開かれる場にもなっている。そして、3年ごとに開催される予定のREBORN ART FESTIVAL の会場として再び多くの人との交流の場になることであろう。



写真2 商店街の様子





写真3 店舗



写真4 オーディオの空間



写真5 酒の空間より店舗をみる

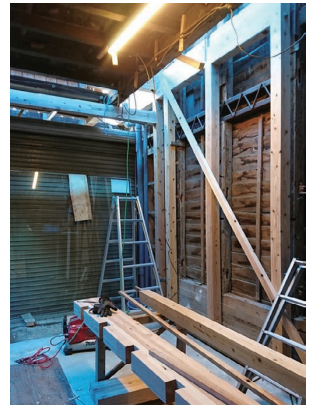


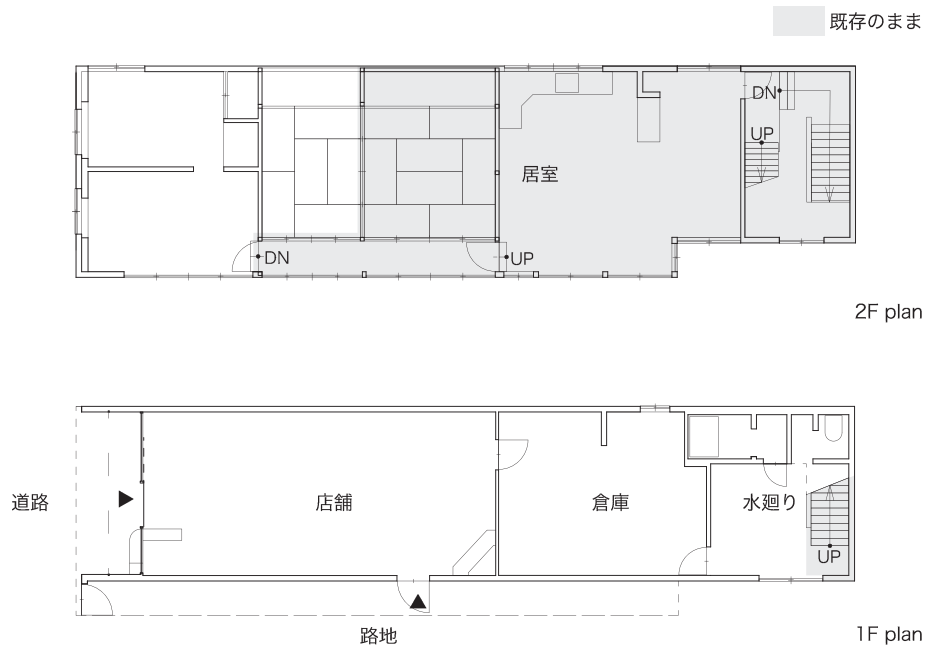
写真6 リノベーション前 震災後店舗は仮設店舗に移転し、被災後の店舗内は店主の城となっていた。既存の壁の内側に構造補強を行い、部分的に内側に新たにフレームを組んだ。



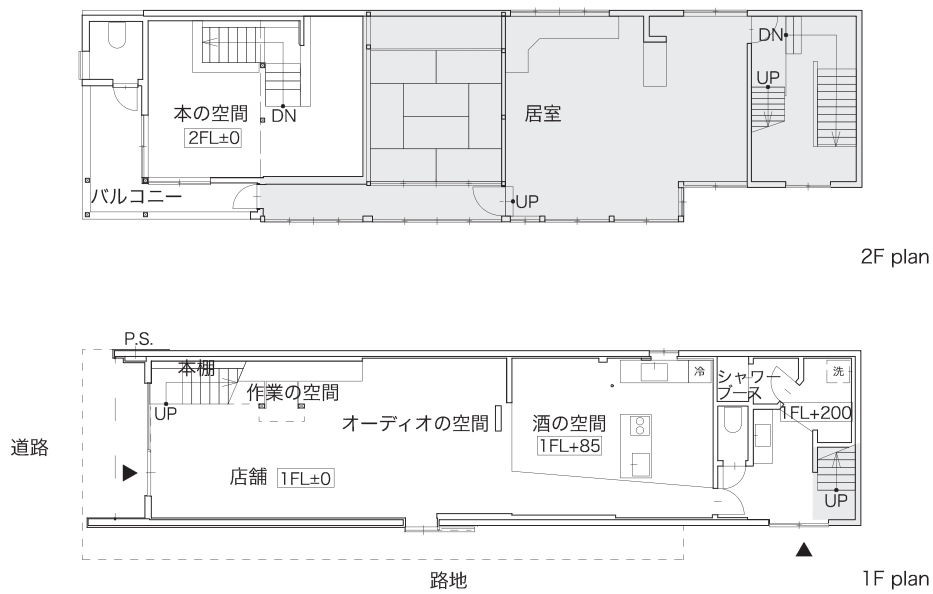
写真7 リノベーション後 REBORN ART FESTIVAL 2017の様子



開かれた店主の棲<sup>すみか</sup>



図面 8 リノベーション前 1 : 200



図面 9 リノベーション後 1 : 200



写真10 階段と本棚 商品・趣味のもの・本が混在，階段下は作業の空間



写真11 階段施工のプロセス（積層）





写真12 階段\_\_2階本の空間からの見下し、本棚=手すり



写真13 階段の抜け感



写真14 片持ち階段

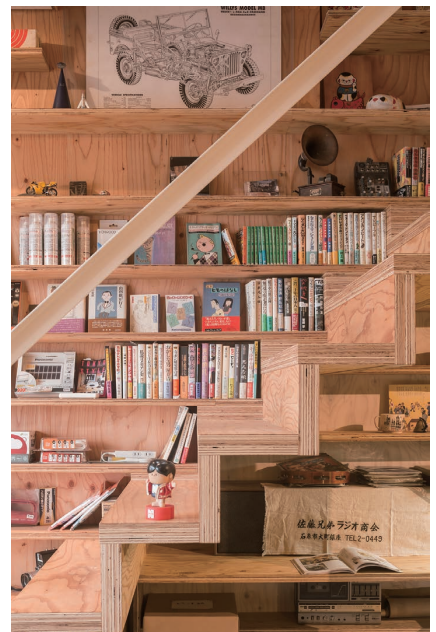


写真15 階段のディテール  
構造用合板の積層で構成





写真16 2階\_\_本の空間



写真17 2階\_\_本を読む静かな空間、トップライトとハイサイドライトにより採光を確保

所在地	宮城県石巻市中央二丁目43
主要用途	店舗／趣味の空間
設計・監理	細田みぎわ＋ Hosoda Archi-Studio/細田勇
施工	Hosoda Archi-Studio/細田勇
大工	細田勇, 谷口和生, 青木榮夫, 鈴木和男
電気工事	佐藤秀博
設備工事	ライフワークス 瀬川恵氏
木製建具工事	前澤木工所 前澤貞治郎
アルミサッシュ工事	ヒラツカ
屋根・外壁工事	井上板金 井上進
左官工事	山田裕子

構造	主要構造	木造在来工法
	基礎	布基礎
規模(リノベーション部分)	階数	3階建ての1階, 2階の一部
	延床面積	111.13 m <sup>2</sup>
	1階床面積	83.43 m <sup>2</sup>
	2階床面積	28.70 m <sup>2</sup>
外部仕上げ	屋根	ガルバリウム鋼板
	外壁	ガルバリウム鋼板
	開口部	アルミサッシュ
	ベランダ	FRP 防水
内部仕上げ	床	鉄筋コンクリート金コテ押工, 一部杉板板 t=15 mm ペンキ塗り
	壁	構造用合板 3 × 10板 t=9 mm 2重張り, 一部 OSB t=9 mm ペンキ仕上げ
	天井	構造用合板 t=9 mm, 一部 OSB t=9 mm ペンキ仕上げ 2階: 一部梁あらわしペンキ塗り, ラワン合板 t=9 mm ペンキ塗り
	本棚	構造用合板 t=9 mm 積層
	＜洗面所・WC・シャワー室＞	
	床	鉄筋コンクリート金コテ押工, 一部杉板板 t=15 mm ペンキ塗り
	壁	PBt=12 mm 下地の上, OSB t=9 mm ペンキ塗り
	天井	PBt=12 mm 下地の上, OSB t=9 mm ペンキ塗り
設備機器	照明器具	Panasonic
	キッチン	サンワカンパニー MUJI + KITCHEN ステンレスユニットシェルフキッチン D=820× W1,680 mm

撮影 楠瀬友将